

徳島県産杉を使用した復興住宅モデルが南三陸復興まちづくりの機構の事務所として宮城県南三陸町に建設され、9月15日に開所式と記念フォーラムが開催された。同モデルは安藤邦廣筑波大学教授と里山建築研究所(茨城県つくば市)が設計、木材とプレキャスト加工は徳島県的那賀川すぎ共販協同組合(徳島県阿南市、佐々木隆雄代表理事)が提供し、南三陸町建設職組合が施工した。

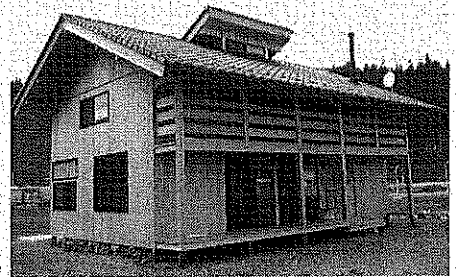
南三陸町は東日本大震災の津波で大きな被害を受け、今も瓦礫と壊れた建物の処理が続いているが、多くの商店が仮設さんさん商店街として営業を開始している。その商店街の裏に同事務所は建設された。

延べ床面積は24坪で、1階が15坪、2階が9坪。板倉構法で「復興住宅板倉の家さんたる」のMタイプで核家族用標準プランだ。木材とプレキャスト加工是那賀川すぎ共販協同組合、瓦は安田瓦産業協業組合(新潟県阿賀野市、星野誠一理事長)、薪ストーブ

復興住宅モデルを建設

板倉の家さんたるMタイプ24坪

南三陸復興まちづくり機構



構造材・内外装とも徳島産杉の機構事務所

全なまちづくり」は渋谷和久内閣府大臣官房審議官が行った。パネルディスカッション「地域連携による産業復興と賑わいの再生に向けて」まちづくり機構の役割」では、安藤教授、浦谷兵剛兵左衛門会長、千川剛史大妻女子大学教授、山内正文まちづくり機構理事長らがパネラーとして参加した。コーディネーターは藤村望洋まちづくり機構専務が担当した。

さんたるの名前は、「さん」は杉の音読みで、「たる」はフィンランド語の「家」という意味に由来する。つまり、「さんたる」には杉の家という意味を持たせている。板倉構法は日本古来の神社

また、杉のムク材だけで家をつくるため、シックハウスの心配もない。しかも、太陽と風を利用するパッシブ機能を持たせている。暖房は端材を燃やせる薪ストーブで、お風呂も薪ボイラーで沸かす。

15日の開所式では、設計した安藤教授が板倉構法の木造住宅の解説と内部見学を行った。開所記念フォーラムの基調講演「東日本大震災の復興まちづくりと3・11から学ぶ安

寛すばらしい歌津を考宮城県土木部次長らがえる会代表、後藤一磨参加して討議した。コ復興支援員、工藤真弓ーディネーターは中林志津川地区まちづくり一樹明治大学教授が務協議会委員、遠藤信哉めた。